



平成25年12月号

発行:旭川医科大学病院卒後臨床研修センター

## センターの活動予定等

◆1月21日 プログラム説明会

◆1月下旬 卒後臨床研修センター一通信1月号発行



### 【おしらせ】卒後臨床研修プログラム説明会を開催します

平成26年1月21日（火）18：00から臨床第2講義室において、医学科第4～5学年を対象に卒後臨床研修プログラム説明会を開催します。掲示板ポスター等ご確認ください。

### 【報告①】症例発表会を開催しました 12月18日

（水）に臨床第3講義室で症例発表会を開催しました。今回は研修医3名による発表で、医師19名、研修医16名、学生2名の計43名にご出席いただきました。1年目の長谷川先生、2年目の石井先生の得票が同数で2名が優秀賞となりました。次回は3月19日の開催予定です。



### 【報告②】CPCを開催しました 12月25日（水）に臨床第3講義室でCPCを開催

しました。今回の症例は「胆嚢癌により死亡した自己免疫性膵炎の一例」で、第二内科、放射線科、病理部、病理学講座（腫瘍病理）にご担当いただきました。医師24名、研修医14名、大学院生2名、学生2名の計45名にご参加いただきました。次回は2月19日の開催予定です。



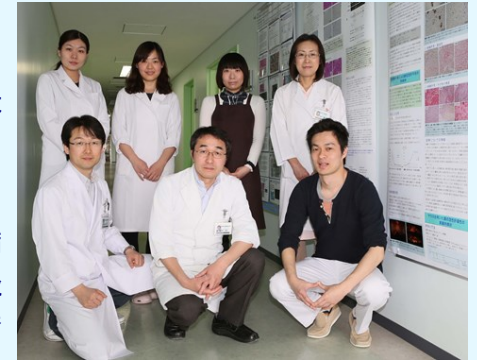
### 【報告③】研修医セミナーを開催しました 12月10日（火）、12月17日

（火）の2回に渡り「病棟予測指示の正しい使い方①②（講師：救命救急センター松坂先生）」を開催しました。今回は学生さんも参加していただきました。本セミナーは研修医向けですが、参加可能な場合もありますので、興味のある学生さんはお問い合わせください。



## 母校の紹介 第18回 病理学講座（腫瘍病理分野）

病理学講座腫瘍病理分野では病理診断、研究、そしてこれらを通じた学生教育に取り組んでいます。私たちは、これらの3つの柱は互いに深く関連し、それぞれが刺激し合うものと考えています。



病理診断は、生検、手術材料の診断から病院で亡くなった患者さんの病理解剖までを扱い、対象臓器も全身にわたっています。1人でほぼ全科にまたがる雑多な病気を扱うのは大変かと思われるかも知れませんが、病理学の基本が身につけば、さまざまな病気を診ても、たとえそれが初めて経験するものであっても、きちんと考えることができるはず。病理医（外科病理医とも呼ばれています）になりたい方には、臨床から信頼されるしっかりとした病理診断ができるように、病理学を基本から丁寧に指導したいと思います。また、将来、臨床医として活躍したい人も一度は病理学を学んでみてください。臨床研修の期間はその良いチャンスではないでしょうか。

私たちは、慢性肝障害での細胞増殖・分化の異常と肝発癌のメカニズムを2大テーマとし、世界で認められるユニークな成果をめざして、基礎研究を行っています。病理診断で培った「眼」を生かし、分子細胞生物学の基本的な技術と最新の研究手法を駆使しながら、これまで誰も気づかなかった重要なことを発見したいと思っています。研究をすることで病態を正しく理解し、病気の治療や予防に生かすことは、私たちの大切な使命です。私たちは病理診断と同様、研究分野を肝臓に限定してはけませんので、どの組織・臓器の研究でも遠慮せずに相談していただければ幸いです。

病理学にはなんとなくお堅いイメージがつきまとっているかも知れませんが、実際にやってみると大変楽しいものです。実際、私たちは病理診断する時に、ついつい時間を忘れて標本を見ながらディスカッションをしてしまいます。私たちが見るところでは、教室に出入りしている学部学生の皆さんも、病理学がだんだん好きになっていくようです。病理医になりたい方、研究に興味のある方は気軽に腫瘍病理の教室をお訪ねください。いつでも歓迎します。

【お問い合わせ先】 旭川医科大学病院 卒後臨床研修センター

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL:0166-68-2198 FAX:0166-68-2199

E-mail: sotsugo@jim.u-asahikawa.ac.jp

http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/

※ホームページもご覧ください